

台風5号対策について

平成23年6月24日
営農支援課

I ハウス等施設全般の対策

施設については別添の「ハウス等施設の台風対策」を参照。

II 作物別の対策

1 普通作物

【早期水稲（穂ばらみ期～出穂期）】

（1）事前対策

- ① 深水にして、倒伏の軽減を図る。
※ただし、棚田等で畦畔崩壊のおそれのあるところでは注意する。
- ② 冠水しやすい水田では、排水路の整備を行う。

（2）事後対策

- ① 冠水した水田では、速やかに排水する。ただし、稲は水分蒸散の盛んな時期にあるため、水が切れないう十分な湛水状態は保つ。
- ② 倒伏した稲はできるだけ引き起こすなどして、草勢の回復を図る。

【普通期水稲（育苗期～分けつ期）】

（1）事前対策

- ① 育苗時期にあるものは、苗箱が冠水しないよう排水対策を行う。また、強風や飛散物により苗が損傷しないよう、苗床を被覆するなどして被害の軽減を図る。
- ② 田植え後にあるものは、深水にして茎葉の損傷の軽減を図る。
※ただし、棚田等で畦畔崩壊のおそれのあるところでは注意する。
- ③ 冠水しやすい水田では、排水路の整備を行う。

（2）事後対策

- ① 冠水した苗床や水田では、速やかに排水する。
- ② 育苗期にあるもので、苗に泥が付着した場合には、かん水により洗い流す。
- ③ 強風により葉が擦れると、葉いもち等が出やすくなるので、特に箱施薬をしていないところでは発生に注意し防除する。

2 野菜

【栽培中の施設野菜全般】

（1）事前対策

- ① ハウスバンドにゆるみがないよう、しっかりビニルを押さえる。
- ② ビニルの上から防風ネット等を被覆し、ハウスバンド等で固定すると強度が増す。

- ③ ハウス妻部には筋かいを入れて補強する。
- ④ 台風の進路に注意し、直撃する可能性があり、ハウス倒壊の危険がある場合（25 m以上の風）は、押さえバンドを切ってビニルを除去する。
- ⑤ ハウスの周囲は滞水しないように排水溝等を整備する。
- ⑥ 防風ネットの設置してあるほ場においては、根石や支線の点検を行い風雨により強度が低下しないよう対策を講じる。

（２）事後対策

- ① 防風ネット・寒冷紗等は直ちに除去し、通風を良くする。
- ② 湛水した場合は、速やかに排水を行う。
- ③ 風対策で使用した防風ネット、寒冷紗等を速やかに取り除く。
- ④ それぞれ品目毎に薬剤防除、草勢回復のための追肥を行う。

【雨よけピーマン、トマト、ほうれんそう、ハウスショウガ等】

（１）事前対策

- ① 栽培中の施設野菜全般に準じる。

（２）事後対策

- ① 防風ネット・寒冷紗等は直ちに除去し、通風を良くして、床面を乾燥させる。
- ② 枝の折れたものや損傷の激しいものは早めに剪除する。
- ③ 傷害果や幼果は摘果して、草勢の回復を図る。
- ④ 速効性窒素肥料を成分で10 a当り2～3 kg 施す。

【太陽陽熱消毒中のハウス】

- ① 台風の進路に注意し、直撃する可能性があり、ハウス倒壊の危険がある場合（25 m以上の風）は、消毒中ハウスの押さえバンドを切ってビニルを除去する。
- ② ハウス内のほ場を覆っているマルチについては、風ではがれないようにするために、土を詰めた肥料袋等で重しをする。
- ③ ほ場内に周辺から流水が侵入しないように排水溝を整備する。

【露地野菜類全般】

（１）事前対策

- ① ほ場の周囲は滞水しないように排水溝等を整備する。

（２）事後対策

- ① 茎葉の傷んだ部分から病気が発生するので、登録農薬を確認して防除する。

【露地きゅうり、ピーマン、にがうり】

（１）事前対策

- ① 栽培ほ場周辺に防風ネットを張る。
- ② ほ場の周囲は滞水しないように排水溝等を整備する。

（２）事後対策

- ① 茎葉の傷んだものや損傷の激しいものは早めに除去する。
- ② 倒れた枝は引き起こして誘因し、受光態勢を整え、草勢の回復を図る。
- ③ 傷害果や幼果は摘果して、草勢の回復を図る。
- ④ 速効性窒素肥料を成分で10 a当り2～3 kg 施す。

【いちご苗】

(1) 事前対策

- ① ほ場周囲の排水溝を整備する。
- ② 育苗ハウスのビニルはハウス倒壊回避のため除去する。
- ③ 採苗の始まっていない親株は、倉庫など安全な場所に移動する。
- ④ 採苗が始まっている場合は、風で飛ばされないよう寒冷紗・防風ネット等を苗の上に直接かけて、風で飛ばされないよう固定する。

(2) 事後対策

- ① 倉庫等に移動した場合は、速やかに育苗ハウスにもどす。
- ② 寒冷紗、防風ネットなど苗の上にかけていた被覆資材を直ちに除去し、通風を良くする。
- ③ 苗の冠部が土に埋まったものは、速やかに土を除去する。
- ④ 雨風に当たると炭そ病等の病苗が増えるので、病株を早めに発見し除去する。
- ⑤ 草勢の低下により病害虫の発生が心配されるので、薬剤散布を実施する。

3 果樹

【果樹共通】

(1) 事前対策

- ① ほ場への降雨が速やかに排出されるように園内の排水対策を徹底する。
- ② 防風ネットの点検を行う。
- ③ 枝の分岐点が裂けるおそれのある幼木や高接ぎ樹では、枝葉をまとめて結束したり、分岐部を縄で8の字型に縛っておく。

(2) 事後対策

- ① 結束した枝は、早めに解いて蒸れを防ぐ。
- ② 幼木・若木・根元から揺さぶられた樹・倒伏した樹は早急に立て直し、盛り土、根締めを行い、支柱で固定する。
- ③ 枝が裂けたものは軽傷ならば縄などでしっかり縛って固定し、回復させる。
- ④ 折れた枝は切り取り、大きな傷口に癒合促進剤を塗る。
- ⑤ 落葉のひどいものには、日焼けを防止するために石灰乳を塗布する。

【かんきつ類】

(1) 事前対策

- ① 風傷による葉や果実へのかいよう病の発生が懸念されるので、襲来前に銅水和剤の散布を行う。
- ② 温州みかんなどのマルチ栽培では、被覆資材が風であおられないように土のう等で固定する。

(2) 事後対策

- ① かいよう病の発生を防止するため、事前の薬剤散布を実施していないところでは、銅水和剤の散布を行う。
- ② 塩害が懸念される場合は、6時間以内に2～3トン/10a以上の水で洗い流す。その後落葉が発生した場合は、程度に応じた摘果（場合によっては全摘果）や枯れ枝の整理を行う。

【なし、ぶどう等】

（１）事前対策

- ① 棚や防風ネットの補修を早めに行うとともに、棚の揺れの激しいところは支柱を立てて結束するなど補強を行う。
- ② 側枝等の棚への誘引を見回り、ゆるんでいる場合は締め直す。

（２）事後対策

- ① 病気の発生に注意し、防除基準に準じて襲来後直ちに防除を実施する。

4 花き

【露地花き全般】

（１）事前対策

- ① 滞水しないように排水溝を整備する。
- ② マルチは土寄せ、市販止め具等によりしっかりとおさえ、風による剥がれを防ぐ。
- ③ 生育に応じて、支柱・ネット等で誘引・固定を実施し、茎葉の損傷を防ぐ。
- ④ ほ場周辺の片づけを行い、飛来物による作物の被害を防ぐ。

（２）事後対策

- ① 冠水・浸水があった場合は、速やかに排水作業を行う。
- ② 必要に応じて殺菌剤、液肥の葉面散布、追肥を行う。

【シキミ】

（１）事前対策

- ① 幼木は倒れる可能性があるので、支柱で固定する。

（２）事後対策

- ① 湛水、冠水した場合は、速やかに排水を行う。
- ② 倒れた木、傾いた木は無理に起こすと根が切れて、枯死する場合があるので、段階的に起こして、正常な状態に戻す。
- ③ ほ場に土砂が流入した場合、根の活力が低下して枯死する場合があるので速やかに株の周りの土砂を取り除く。

【施設・雨よけ花き全般】

（１）事前対策

- ① 排水溝の整備、防風ネットの設置を行う。
- ② 草丈がある程度伸びたものは、支柱を補強し、誘引ネット等の張りを強化して倒伏を防止する。
- ③ ハウス内のかん水チューブやスプリンクラー、ミスト施設は風で飛ばないように収納あるいは固定する。

（２）事後対策

- ① 湛水、冠水した場合は、速やかに排水を行う。マルチ栽培の場合はマルチをはがして畦を乾燥させる。
- ② 台風後の高温・強日射の被害を防ぐために寒冷紗等で被覆を行う。
- ③ 茎・葉の損傷が発生した場合は、薬剤防除・液肥の葉面散布等を行う。
- ④ 電照や夜冷育苗等、電気機器を使用する品目では、機器が正常に稼働するか点検・確認を実施する。

【ホオズキ】

(1) 事前対策

- ① 茎葉の損傷を軽減するために、支柱・ネットによりできるだけ株の固定を行う。
- ② ハウスのビニル被覆を剥ぐときに備え、防風ネット等で畦の周囲を覆う。

(2) 事後対策

施設花き全般に準ずる。

【コチョウラン他、冷房ハウス等】

(1) 事前対策

- ① 長期停電に備え、自家発電等を用意するとともに、試運転を事前に行う。
- ② デルフィニウム等の夜冷育苗は、苗を夜冷庫内に収納する。
- ③ 外部遮光、被覆等は除去するかハウス上部に巻き上げて固定する。

(2) 事後対策

- ① 落雷等により停電した場合は冷房設定を再度確認する。
- ② 夜冷育苗の場合は、台風通過後、すみやかに遮光資材等の被覆を元に戻し、苗を夜冷庫から外に出す。
その他は施設花き全般に準ずる。

5 特用作物（茶）

(1) 事前対策

- ① 1～3年生茶園で5月にせん枝できず、風の影響を受けやすいと予想される徒長枝は、30cm前後又は前回せん枝位置から5cm程度上げてせん枝を実施する。
- ② 幼木園（1～2年生）では、防風ネットを設置する。
- ③ 幼木園（1～2年生）では、株元やマルチ資材への土寄せにより、株の揺れやマルチのバタツキを防止する。
- ④ 敷草をして土壌の浸蝕防止と明渠による滞水防止と排水対策を実施する。
- ⑤ 茶工場（煙突、屋根、雨とい、窓等）の点検・整備・補強を実施する。

(2) 事後対策

- ① 風雨による倒伏や地際の損傷を受けた幼木の株元や剥げたマルチ資材への土寄せ、添え木、補修を実施する。
- ② 降雨がなく、海からの風で塩分が付着したとみられる茶園は、塩分付着8時間以内の早めの散水（5mm以上）により塩分を除去する。
- ③ 強風により葉の損傷を受けた茶園では薬剤散布を実施する。
- ④ 滞水・浸食部分の速やかな排水処理と改修・整備を実施する。

6 畜産

【畜産全般】

(1) 事前対策

- ① 畜舎の防風対策を十分に行い、特に開閉部はしっかりと固定するなど、破損に注意する。

- ②特に山間部では、道路の通行止めが予想されるため、飼料（配合飼料、青刈り、サイレージ含）は、余裕をもって準備する。
- ③停電が予想されるので、発電機の手配とともに、試運転を事前に行う。
- ④断水の可能性がある場合には、最小限の飲水量を給水タンク等で確保する。
- ⑤家畜ふん尿等が、流出しないよう、必要な対策を行う。

（２）事後対策

- ①浸水した畜舎は、台風通過後に速やかに消毒する。

【養豚・養鶏】

（１）事前対策

- ①鶏舎内への雨の打ちこみを避け、床に湿り防止を行う。

（２）事後対策

- ①台風通過後は、急激に気温が上昇することがあるので、肥育豚及び出荷前のブロイラーでは、畜舎を開放するなど換気に努める。

【飼料作物】

- ①発芽間もない飼料作物は、長期間の冠水で湿害が予想されるので、事前に排水対策を講じ、冠水した場合は速やかに排水を行う。

【事前対策】

①防風ネットの設置

防風ネットはあらゆる強風対策の基本であり、必ず設置する。

②被覆資材の補強

被覆資材がはがれる被害は、屋根の両端の破れが引き金となる。

図1の  部分をネットで保護する。

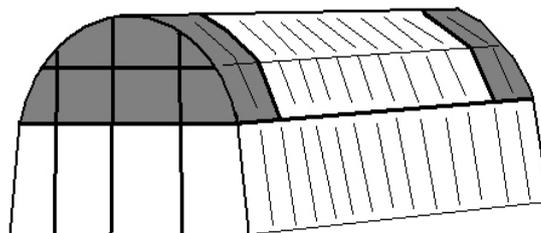


図1 被覆資材の補強

③ハウス本体の補強

ハウスビニル等にシワ・タルミがあると、耐風性は大幅に低下する。必ず確認を行う。

サイドビニル、出入り口はしっかりと閉じて固定する。

ハウスバンドの本数を増やすとともに、締め直し補強する。ハウスバンドを止める両側のヨリ鋼線や支柱を支えるラセン杭も補強する。

硬質ハウスでは天窗の補強も重要となる。ロープ等でしっかりと固定する。

④排水対策の徹底

ハウス内に雨水が流入しないように、周囲の排水溝の整備を徹底する。また、ハウスが連棟の場合、谷水を「とい」などで排水路まで導き、ハウス内に入らないようにする。

⑤自動開閉装置対策

ハウスを締め切ったあと、温度センサーによって換気部が動き出さないようにする。

⑥燃料タンク対策

台風により、広範囲が冠水しているときに、燃料タンクが倒れたり、配管の破損等により燃料油が流出すると、農作物だけでなく施設周辺にも被害を及ぼすので、タンクの固定ボルトの増し締め、配管付近の片付けを行う。

⑦換気扇の利用

換気扇がある場合には、換気扇によってハウス内を低圧状態に保つことで、ハウスビニルの揺れを防止する。また、停電に備え非常用電源を準備する。

⑧倒壊の恐れがある場合

ハウス倒壊の危険がある場合には、押さえバンドを切ってビニールを除去し、ハウスの倒壊を防ぐ。

また、雨中の作業では、飛来物に注意し、転落事故にも気を付ける。

【事後対策】

通過後一気に晴れてしまうことが多いので、換気対策を優先し、換気部の補強を解き、自動開閉装置の設定を元に戻す。

ビニルが破損した場合には、速やかに補修する。

滞水した場合には、すみやかに排水を行なう。